

ニイガタで ニイガタを

学ぶ

新潟地域志向科目

新潟の歴史や
文化、自然、産業や
暮らしについて
学ぼう

新潟県内大学の
学生の皆さんへ

SADO

MURAKAMI

SHIBATA

NIIGATA

TSUBAMESANJO

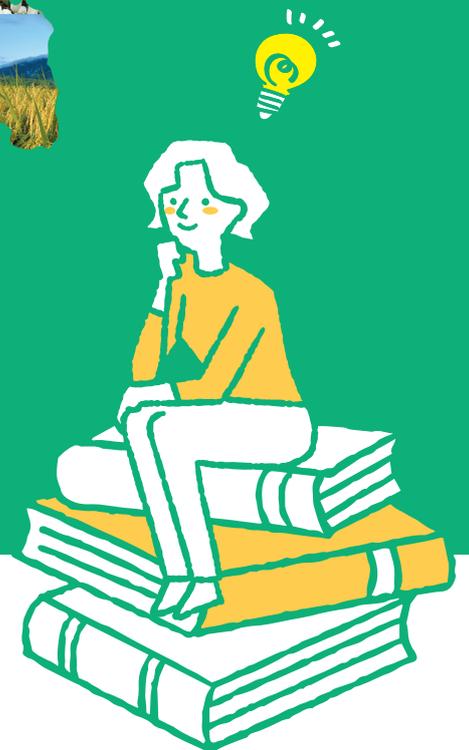
NAGAOKA

KASHIWAZAKI

UONUMA

JOETSU

新潟県内9大学の
新潟地域志向科目のご案内





新潟地域志向科目ってなんですか？



それは**新潟のことをもっと知ろう！**
という科目のことです！

新潟県内にはたくさんの大学があり、それぞれの大学や学部で独自の科目が開設されています。

その中には、新潟の地域のことを深く学び、知ることができる科目があります。皆さんが通っている大学だけでなく、他の大学でもそのような科目が用意されていますが、これらの科目を通して身に付けてもらいたいことはどの大学でも共通です。

そこで、9つの大学*では、これらの科目を「新潟地域志向科目」と位置づけ、学生の皆さんに積極的に受講してもらおうと、このパンフレットを作成しました。通っている大学が違って、「新潟地域志向科目」に登録されている科目を学ぶことで、共通の知識や能力を身に付けることができます。



※参加大学
(50音順)

敬和学園大学 長岡大学 新潟大学 新潟県立大学 新潟国際情報大学
新潟産業大学 新潟青陵大学 新潟青陵大学短期大学部 新潟薬科大学

Q. 新潟地域志向科目とは？

新潟県や県内市町村の歴史や文化、自然、産業、暮らしなど地域に密着した内容を学ぶ科目です。地域活性化や産業振興などの地域に潜む課題解決について考える機会になるとともに、将来、地域で活躍できる人材を育成します。

Q. 各校が開講している理由は？

ズバリ！皆さんに将来新潟で活躍する人材になってほしいからです。そのため、新潟について深く学ぶ機会や実際に地域課題に向き合う機会をつくっています。これらの授業を通して、地域の魅力をただ知るだけでなく、地域が抱える問題への意識や関心を高め、地域をリードする人材を育成します。

Q. 具体的にはどんな授業？

座学中心の授業のほか、実際にフィールドに飛び出して行う実習・演習やグループワークを取り入れたものなど形式は様々です。自治体や企業の第一線で活躍している方を講師に迎え現場の生の声を聞き、また実際に現地に赴き自分で見聞きし体感します。そうした授業により、ニガタの地への理解を深め、愛着を育み、地域社会の課題解決へのアプローチ方法や、地域貢献のマインドを身に付けることができます。

Q. 県外出身だし、卒業後も新潟で働くかまだ分からないけど…？

学生時代は将来の皆さんの基盤になる期間です。専門分野以外の色々なことに触れて見聞を広め、活動の幅を広げることが将来の選択肢を増やすことにもつながります。地域や社会との関わり方を学ぶことは社会に出てからも役立ちます。

Q. 私の大学にはどのような科目があるの？

次ページから各校の代表的な科目を1～2科目紹介しています。内容詳細や、その他の科目は、各校のシラバス等でチェックしてください。(URL、QRコードを付記しています)

敬和学園大学

地域の未来を支える社会人を育成する 「地域経営プログラム」

敬和学園大学では、地域と密着した学びとして「地域経営プログラム」を用意しています。このプログラムでは、企業経営やコミュニティ形成のために必要となる理論を地域の現状と共に学び、地域社会の中で実践する経験を通じて、地域の未来を支える社会人を育成していくことが目的です。このプログラムのスタート科目である「地域学入門」、発展科目の「地域学1・2」、「アクティブラーニング演習」等の科目により、地域の歴史・文化・社会・経済の現状を深く理解していきます。

担当
窓口

敬和学園大学 教務課教務係
TEL : 0254-26-2514
E-mail : kyomu@keiwa-c.ac.jp
新発田市富塚1270番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!
<https://srv.keiwa-c.ac.jp/up/faces/login/Com00501B.jsp>

地域社会に学び、 地域社会に貢献する



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 1

対象 1年生

地域学入門(後期)

1年次生全員が地域を学び
地域の魅力を発見する

この講義は、私たちの大学が置かれた地域社会を理解することを目的としています。履修生のみなさんには、地域の良さを理解し、この入門科目に続く地域学系の科目やアクティブ・ラーニングによりさらに学びを深め、将来、地域社会で活躍する人になってほしいと思います。まずは学生のみなさんが学生生活を送る地元新発田・聖籠地域の歴史、文化、社会、経済について学んでいきます。



単位数 2

対象 2年生以上

地域学1・2(前期・後期)

2年次生が地域を深く学び
地域の魅力をさらに探求する

この講座は、アクティブラーニングとして仕事の現場を実感し、企業が抱える課題を解決するPBL(問題解決型学習)を行います。そのため地元企業の経営者の方を講師としてお招きし、職場での経営哲学や実践方法などを教室で伺い、社会や地域を見る目を養います。またこの授業の講師の方々と学生たちとの絆を通して、地域社会の活性化、未来の社会人となることを目指します。



長岡大学 NAGAOKA UNIVERSITY

地域を学び、地域課題解決のための 専門的能力を向上させよう

長岡大学は「地域で役に立ち、頼りになる大学」を目指し、「地域の実態把握・現場・企業の体験および地域課題解決等を行う授業科目」として、多様な地域志向科目を設定しています。地域の人々や組織と連携した学びを深めて、地域課題の解決に寄与する専門的能力を身につけることを目的とした授業科目です。積極的な履修によって、その学びの成果をもとに、地域コミュニティの再生や地域活性化の核となる人材として活躍してもらいたいと願っています。

担当
窓口

長岡大学 教務課
TEL : 0258-39-1600
E-mail : kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp
長岡市御山町80-8



他の科目や詳細はシラバスにGO!
長岡大学授業計画(シラバス)
<https://www.nagaokauniv.ac.jp/students/>

地域志向教育により 地域で活躍できる人材を育成します



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 1年生

経済・経営の現場を知る1

県内産業および
特徴的な県内企業を学ぶ

後期授業(「経済・経営の現場を知る1」)では、大学における地域に関する学びの基礎となる経済・経営概念を修得します。主に経済に関する題材として、国内・県内の産業における特徴的な企業を取り上げます。県内産業の特徴や成り立ちを理解するとともに、全国的にも有名な県内企業について学び、今後の地域研究のための基礎知識を蓄積することで、問題意識を培います。



単位数 2

対象 1年生

経済・経営の現場を知る2

流通業の学びを通じて新潟県・長岡市の
まちづくりと企業の関わりを理解する

前期授業(「経済・経営の現場を知る2」)では流通業に焦点を当てます。流通業は私たちの生活と密接で極めて身近な存在です。新潟県・長岡市の流通企業は、地域の発展と深く関係しています。その現場の業務等についての学びを通じて、新潟県・長岡市の流通業発展のプロセスや現状と課題、今後の方向性について理解を深めるとともに、まちづくりと企業の関わりについて考察します。



新潟大学の新潟地域志向科目は ココが面白い!

新潟大学は10学部5大学院研究科から成り、専門性の学び、文理にわたる幅広い分野の学び、地域社会での課題解決学習を組み合わせ、課題と目標を持って学ぶことができます。日本酒学、佐渡学、トキをシンボルとした自然再生、新潟産業フィールドワーク等、新潟特有のテーマや、新潟をフィールドとして専門性を学ぶプログラムも多く、ニガタの特長や魅力を色々な角度から発見できます。企業や自治体の職員と学生が協働して実践的課題に取り組む「共修型フィールド学修」では、現場の第一線で活躍する方の生の声、最新動向に触れることができます。

担当
窓口

新潟大学 学務部教務課連携教育支援室
TEL : 025-262-6309
E-mail : renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp
新潟市西区五十嵐2の町8050番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

新潟大学シラバス検索

<https://www.niigata-u.ac.jp/academics/syllabus/>

総合大学ならではの
様々な領域の科目があります!



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 1

対象 全学年

ダブルホーム活動入門I・II

地域と共に創る新たなふるさと

ダブルホーム活動入門I・IIは、新潟大学ダブルホームの導入授業です。ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組む準正課プログラムです。第1のホームである学部・学科を越えた第2のホームで、地域に密着した「新たなふるさとづくり」の地域活動を行います。地域の思いと向き合う中で自分たちに何ができるかを考え、活動を計画・実践・省察し、社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育みます。



A:単位数 2 B:単位数 1

対象 全学年

日本酒学A・B

世界初の学問「日本酒学」を学ぶ

「日本酒学」とは、広範な学問を網羅する「対象限定・領域横断型」で、日本文化や伝統に根差した日本酒を対象を絞った世界初の学問です。日本酒学Aの講義では、総合大学の強みを生かして人文社会科学・自然科学・医学・保健学の幅広い学問領域から日本酒にアプローチした講義を展開しています。日本酒学Bでは、科学的な利き酒の講義や酒蔵見学、さらには蔵元と日本酒に関するディスカッションなどをおこない、日本酒学Aで学んだ知識を実践的に深める実習型の講義をおこなっています。



「新潟学」を通して、新潟県がおか ている現状と課題を理解する

新潟をフィールドに、地域の歴史、伝統と生活文化、暮らしと政策など、新潟県の文化的・社会的な特徴、現状について理解するとともに、持続可能な地域社会の発展に向け、地域が抱える諸課題解決への糸口を探ります。

新潟学(R4年度開講)

- ①新潟県の文化と社会
- ②新潟県の子ども・子育て支援
- ③新潟県の地方自治
- ④新潟県の地産地消
- ⑤新潟県の地域計画とまちづくり

担当
窓口

新潟県立大学 地域連携推進センター
TEL : 025-368-8225
E-mail : unpreco@unii.ac.jp
新潟市東区海老ヶ瀬471



他の科目や詳細はシラバスにGO!

新潟県立大学オンラインシラバス

<https://ginkgo.unii.ac.jp/campusweb/slbssrch.do>

国際性 × 地域性 × 人間性
「新潟が、学びのフィールド」



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 全学年

新潟県の子ども・子育て支援

「子ども支援」「子育て支援」の
現状と課題を知る

この授業の目的は、新潟県の「子ども支援」や「子育て支援」、すなわち「子ども・子育て支援」の実際を理解することです。新潟県で実践されている子ども・子育て支援のための福祉活動やボランティア活動の実際を紹介しながら、関連する施設や具体的な課題への理解を深めます。



「子育て」「子育てする人」の
現状と課題を知る

また、社会全体で子育てを支えることの重要性や子育て中の親の心理を知り、受講者それぞれが身近なこととして「子育て」について考えていきます。同時に子どもおよび親の育ちを支える「子育て支援」についての理解を深め、地域において「子育てをする」「子育てを支える」ことへの意識を高めることを目指します。



新潟を核に、国際と情報と人をつなぐ

本学は、北東アジアを中心とした国や地域の言語や文化、社会状況を理解し、国際社会（国際化時代）に対応できる人材を育成する「国際学部」と、経営学と情報システムの両方を理解しバランスよく身につけ、社会の発展に貢献できる人材を育成する「経営情報学部」との2学部からなる大学ですが、その核には「新潟」があり、そこから「国際」と「情報」そして「人」をつなぎます。「新潟研究」はその核としての新潟を理解することを目的とした科目です。姉妹科目として「新潟研究（政治と経済）」があり、新潟日報の編集委員や記者の方が活きた情報に基づく講義を行っています。

担当
窓口

新潟国際情報大学 企画推進課
TEL : 025-239-3111
E-mail : kikaku@nuis.ac.jp
新潟市西区みずぎ野3-1-1



他の科目や詳細はシラバスにGO!
カリキュラム・シラバス
https://www.nuis.ac.jp/gakubu_curriculum/

つなぐ つなげる つながる



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

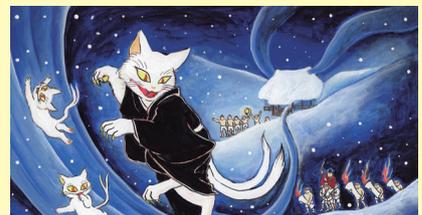
単位数 2

対象 全学年

新潟研究（自然と文化）

「新潟の民俗」と「新潟の自然環境」を、それぞれを専門とする2人の教員が担当します

「新潟には何も無い」と学生も含めて新潟の人はよく言います。そう言ってしまうのは、新潟についてしっかりと学ぶ機会がこれまでなかったことが大きな原因なのではないでしょうか。「新潟には何も無い」と思うことは新潟（の将来）にとっても極めて大きなマイナスだと考えます。例えば、地域活性化やまちづくりを考えるにしても、何も無いと思っている人からは、何も出てくるわけがありません。実際には、新潟には文化・民俗的にも自然環境的にも他所にはないきわめて個性的で魅力的なものやことが数多くあるのです。地域を知ること、考えることは自身の生活だけに係るものではなく、その意義は多方面に及びます。皆さんにとっての知られざる新潟を、この二つの視点（民俗・文化、自然環境）から取り上げていきます。受講した皆さんの新潟に対する認識が大きく変わることになります。



フィールドワーク重視のカリキュラム

新潟県柏崎市で創設時から70有余年もの間、『経済』を学ぶことを軸とした教育を実践すると共に、特に「地域実践教育」に力を注いできました。「地域」は、柏崎市は勿論ですが、新潟県、また広く日本も世界から見れば一つの地域と捉えることができます。現在、フィールドワークを重要視したカリキュラムの中で、学内だけに留まらず、地域と協働し地域を見つめ、地域連携・まちづくりに学生たちは、自らの五感を使って学んでいます。この経験が、卒業後の地域社会のフィールドで役立ちます。

担当
窓口

新潟産業大学 地域連携センター事務室
TEL : 0257-24-8441
E-mail : renkei@ada.nsu.ac.jp
柏崎市軽井川4730番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!
新潟産業大学 Webサイト
<https://www.nsu.ac.jp/research/region-center/alliances/>

「地域に学び、地域をおこす」ための実学教育プログラム



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 8

対象 1・2年生

地域理解ゼミナール

フィールドワークを通じて「地域」を学ぶ

1・2年次の必修科目として「地域理解ゼミナール」を開講しています。1年次では、①「地域経済政策」②「地域企業経営」③「地域観光・スポーツ」④「地域農業・6次産業」⑤「地域文化」⑥「コミュニティ・まちづくり」の6分野を、フィールドワークを通じて地域活動・地域連携について理解します。1年次から地域に積極的に飛び込み、学生が地域と共に成長することを目指します。



地域と協働し、社会に求められる地域のリーダーを育成する

2年次では、6分野から2分野に絞り考察します。春学期、秋学期に2年間の集大成として学年合同のプレゼンテーションを実施します。学内で学ぶ「理論」とフィールドワークによる「実学」を早い段階から運動させ、幅広い角度から地域を見つめ地元の地域おこしにも一役買っています。専門的な学びと具体的な地域連携・まちづくり活動を通じて、「地域に学び、地域をおこす」人材の育成を目指します。



専門性の異なる学生と協働し、
多様な価値観・多職種連携を理解する

新潟の歴史を学び、看護学部・福祉心理学部の専門性の異なる学生が協働し、地域連携・ボランティアに取り組むことで、学生相互の異なる視点からのアプローチを行い、就業後も多職種連携の必要性を理解します。多様な価値観を踏まえ、新潟の歴史、地域連携、ボランティアを通して、自ら主体的に動くことができる人材を育成することを目標にしています。



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

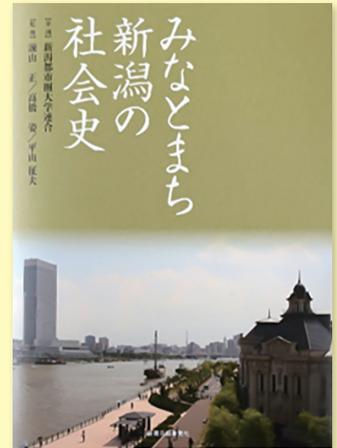
単位数 2

対象 1年生

新潟学

「みなとまち」新潟の歴史

新潟市は北東アジアとつながる空と海の拠点であって、学術・文化・産業の情報発信基地としての可能性が期待されています。このような開放都市新潟は古代より「みなと」とともに発展したという経緯があります。「みなとまち」という視点からこれまでの新潟の歴史を振り返り、新潟への理解、課題探求能力の育成を図ります。授業では新潟の複数大学が連携して製作した著書「みなとまち新潟の社会史(著者:諫山正ほか/新潟日報事業社)」を使用します。



受講生の声

- 「みなとまち」新潟を港町の生成から、港湾都市まで学ぶことができ、新潟のアイデンティティを考える上で参考になった。また、新潟町が常に他国により統治され、自然災害とのたたかひの中から独自の町人文化が醸成された歴史過程をさらに追及していこうと思った。
- わかりやすく、毎回あっという間で、新潟市民としての自覚を持つことが、この学びで出来た。

担当
窓口

新潟青陵大学・短期大学部 社会連携センター
TEL : 025-368-7053
E-mail : ex@n-seiryu.ac.jp
新潟市中央区水道町1丁目5939番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/syllabus2019/

「にいがた」という地域に学び、育まれた
「心(マインド)」を持ち、自主的、積極的に
行動する力を身につける

本学では、「専門性を持って持続可能なコミュニティの発展に能動的に寄与できる人材」及び「地域課題から新しい価値の創造ができる人材」を育成し、認定する制度を設けています。地域での活動を通して学生自身が課題を発見し、地域住民とともに考え、解決策を提案・実行・検証するプログラムです。認定要件となっている科目を修了した学生には「にいがたマインド学生マイスター」という称号が授与されます。



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 1

対象 1年生

地域ミッションインターンシップ

体験型から経験型へ!

夏休み期間の集中講義として実施します。新潟市の商店街を舞台に、一般的な体験型インターンシップではなく、地域の商店街が抱える課題や悩みを、学生自ら聞き取りを行うことで掘り起こし、その解決策を提案し、実行するという、経験型インターンシップです。フィールドワークを通じ、産業界等から求められる「課題発見・解決力」「提案力」「コミュニケーション力」の向上を目指し、修得することを目標としています。



最終日には課題解決案を
グループごとにプレゼン!

本講義は、グループでの活動ですが、受け身ではなく一人一人が主体的に取り組むことで、課題解決への気づきや、様々な視点からのアイデアが生まれます。フィールドワーク実習の結果は、毎日グループで話し合い、報告会を通してレポートにまとめ、最終日には地域の方や自治体に向け、グループごとに活動の成果を発表します。



担当
窓口

新潟青陵大学・短期大学部 社会連携センター
TEL : 025-368-7053
E-mail : ex@n-seiryu.ac.jp
新潟市中央区水道町1丁目5939番地



他の科目や詳細はシラバスにGO!

http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/syllabus2019/



地域の魅力を考え専門知識を地域貢献に活かすノウハウを学びましょう

新潟薬科大学のビジョン“健康・自立社会の実現を目指した「ひと」と「地域」に貢献する”の達成のため、本学では地域社会での実践的な学びを重視した教育プログラムを展開しています。新潟県は、豊かな自然に支えられた農業と食品製造業が盛んな地域です。地域志向科目として、講義形式の授業を通じて新潟の魅力を考える科目はもとより、学外でのフィールドワークなど演習形式の授業も活用しながら、地域の人々とふれあい、新潟を大切にす人材育成を目指しています。

担当
窓口

新潟薬科大学 事務部学事課
TEL : 0250-25-5200
E-mail : gakuji@nupals.ac.jp
新潟市秋葉区東島265番地1



他の科目や詳細はシラバスにGO!
新潟薬科大学ホームページ(シラバス)
<https://www.nupals.ac.jp/about/syllabus/#pha>

食品、農業、環境、健康から、新潟を考えます。



Pick up! 代表的な科目をご紹介します

単位数 2

対象 2年生

食文化論I

伝統的な食文化や郷土食を
歴史的背景から学ぶ

食を取巻く歴史の変遷を「食環境」の変化として講義します。気候風土やその地に住み続ける生活者により育まれた食文化の生い立ちや変化を、新潟県6地域(蒲原・岩船・古志・魚沼・頸城・佐渡)の郷土色あふれる特産食材や調理法、味覚、嗜好、四季の行事食等から学びます。先人の知恵の結晶が、郷土食に表現されていることを通じ、郷土食を継承することの意義深さを実感してください。



新潟県の六つの地域で
育まれてきた食環境を学ぶ

生きることは、食べ続けることであり、その土地に生まれ生き抜いていくことは、その土地の地形や天候そして自然を相手にして生き続けてきた証であり、その土地で受け継がれている郷土食であり食文化です。新潟県の各地域で、その土地の自然と人間が融合し育んだ食文化を知ることは、新潟をより深く知ることにつながるものと確信しています。



地域活動の成果発表の場 地域活動・ 学生発表交流会



「地域活動・学生発表交流会」は、新潟地域志向科目での学外活動や、学生主体の地域活動について、県内大学の学生が一堂に会して成果を発表し、学生同士はもちろんのこと、大学関係者、自治体、企業、地域住民などの方々と交流する場で、年に1回開催されています。企画運営は学生有志と「新潟地域連携コミュニティ(*)」とで行っています。

「ブラッシュアップ・意見交換会」では、活動途中の過程での悩みや課題について他グループとアドバイスやアイデアを交換できるので活動を見直すよい機会になっています。



学生同士の交流や人脈をつくる場にもなっています!

活動チームごとにプレゼンテーション資料を作成して成果を発表します。



交流会は活動に対してフィードバックがもらえる場。成果が認められるのはやっぱり嬉しい。自分への振り返りの機会にもなっている。

運営に参加した学生からのコメント

私は生まれも育ちも新潟ですが、新潟について学んでみると、今まで気づかなかった魅力がたくさん出会うことができました。学生時代に新潟の魅力を発見することで、この地で今やってみたいと思う活動だけでなく、将来やりたいことも見つかるはずですよ。

(新潟国際情報大学 国際学部学生)

地域について学ぶことは、住んでいるだけでは知り得なかった情報・魅力の発見や地域貢献に繋がるだけではないと思います。特に、地域課題を解決しようとする過程で得た経験は、何か問題に直面した時、それを解決するヒントを与えてくれると感じています。

(新潟大学 人文学部学生)

新潟県内9大学では、県内各自治体と大学との連携を深める活動に協力して取り組んでいます。

これによって、学生の学外活動・地域活動を展開するエリアや活動テーマが拡大していき、学生の皆さんと地域との関わり方がもっとバラエティに富んだものになることを期待しています。



大学関係者、学生、自治体や地域の方々など、色々な立場の方が多数参加しています。

*新潟地域連携コミュニティの説明は8ページを参照してください。



～学生の皆さんへのメッセージ～

住民主体の地域づくりの推進

自治体から



新潟県知事政策局
地域政策課長
佐藤 健一 氏

新潟県の多くの地域、特に過疎地域等の条件不利地域と言われる地域では、人口減少、少子・高齢化が顕著となっており、生活に必要なサービスの継続、地域社会の活力維持が大きな課題となっています。

そのような中、地域住民が自ら地域づくりを行う団体を組織し、コミュニティバスの運行や高齢者の見守り、除排雪支援等、地域課題の解決に取り組む動きが出てきています。

こうした地域では、地域おこし協力隊や大学生等の外部人材の受け入れに積極的な地域も多く、大学のゼミやサークル等が住民と協働し、交流イベントの実施や農産物のインターネット販売など様々な地域づくり活動に取り組んでいる例が増えてきています。

本科目を受講される皆さんには、実際に地域を訪れていたいただき、まずは、地域の現状に触れるとともに、何が課題なのか、また課題解決に向けて自分達に何ができるのかを考えていただきたいと思います。



R3年度新潟県若手人材等による
地域課題解決提案事業(専修大学森本ゼミ)

新潟の魅力を世界に発信しよう

産業界から



株式会社新潟日報社
執行役員 東京支社長
鶴間 尚 氏

新型コロナウイルスの影響で、私たちを取り巻く環境は一変しました。リアルに出会う場面が激減した一方、新潟にいながら全国や世界と直接つながるオンライン環境の整備が進みました。地方の新聞社である新潟日報社も地域の枠を超えて新潟の情報を届けられる範囲が拡大しました。従来のビジネスモデルに新たな可能性が加わったのです。

新潟の魅力をリアルタイムで世界に直接発信できる。私たちはいま新たなステージに立っています。新潟には食や農業にかかわるものづくりなど未来につながる産業が数多くあります。また、日本海や佐渡、雪を頂く県境の山並み、豊かな実りを育む大地など、世界がうらやむポテンシャルを持っています。

大学が連携して展開する「新潟地域志向科目」はそんな地域を知り、体感する絶好のチャンスです。新潟日報社はSDGsを実現するプラットフォーム、県内外の大学生と地域をつなぐプロジェクトなど、産官学で連携し、地域の課題解決を目指す事業を幅広く支援しています。新潟を学ぶ皆さんと一緒に、新潟を世界に発信できることを楽しみにしています。



第1回SDGsアワード表彰式
(2021年3月・新潟市中央区のメディアシップ)

ニイガタで学ぶ ニイガタを学ぶ 新潟地域志向科目

～新潟県内9大学の新潟地域志向科目のご案内～

発行：2022年4月

編集・発行：新潟地域連携コミュニティ

(事務局：新潟大学教育・学生支援機構内)

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地 TEL：025-262-6633

URL <https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niigata-community/>

※新潟地域連携コミュニティ

新潟県における若者雇用・定着、地域人材の育成に取り組む産官学金学が意見や情報の交換、情報共有、自主的な協働を促進するためのコミュニティ(場)を提供し、各機関同士の連携を推進します。2020年10月設立。